

会 議 録

会 議 名	嵐山町都市再生整備計画事業評価委員会					
開 催 日 時	平成23年12月20日（火）	開 会		9時30分		
		閉 会		11時40分		
開 催 場 所	204会議室					
会 議 次 第	1 開 会 2 任命書交付 3 あいさつ 4 委員紹介、事務局紹介 5 議 題 (1) 委員長および副委員長の選任について (2) 会議録の署名人の任命について (3) 事後評価制度の概要について (4) 嵐山中央地区都市再生整備計画について (5) 嵐山中央地区都市再生整備計画の事後評価の審議について ・ 事後評価方法書について ・ 成果の評価について ・ 効果発現要因について ・ 事後評価原案の公表について (6) 今後のまちづくりについて ・ 今後のまちづくり方策について ・ フォローアップ計画について (7) 評価委員会後のスケジュールについて (8) その他 6 閉 会					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数		0人	
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	委 員	桑田 仁	出	委 員	宮本 雍久	出
	委 員	根岸 義幸	出	委 員	荻原 敏雄	出

		奥田 作雄	出	委 員	長島 貞夫	出
		真澤 榮	出	委 員		
	岩澤町長					
事 務 局	総務課長 井上 裕美					
	まちづくり整備課長 田辺淑宏			まちづくり整備課副課長 菅原 浩行		
	文化スポーツ課長 大塚 晃					
	総務課副課長 伊藤恵一郎			総務課主査 藤野 広之		

次 第	顛 末 (要点筆記)
1 開 会	井上総務課長
2 任命書交付	町長より各委員に任命書を交付した。
3 あいさつ	<p>(岩澤町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町長に就任後、嵐山町の刑法犯発生件数が高いことが明らかになった。パトロールなどの地域の皆さんのご協力により、件数は大幅に下がってきている。 平沢土地区画整理事業も当初立ち上げた時の土地価格でなくなり、大幅に下落してしまっており、厳しい状況である。 そのように、町を取り巻く状況は困難であったが、それまでの課題を解決するため、まちづくり交付金事業を始めた。 本交付金を活用し、事故防止、防犯などを目指すため通学路の整備などを行ってきたが、その成果が上がってきていると思う。ふれあい交流センターも利用が増えてきている。 今回は平成19年度から始まった本計画の評価をしていただく会議である。本日は宜しくお願ひしたい。
4 委員紹介、事務局紹介	<ul style="list-style-type: none"> 各委員より自己紹介を行った。 事務局の紹介を行った。
5 議 題	<p>(1) 委員長、副委員長の選任について</p> <p>(岩澤町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> それでは、要綱第5条により、委員長及び副委員長を決めたいと思う。 <p>(真澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 何か案はあるのか。

	<p>(岩澤町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画審議会委員から1名、区長から1名を選出してもらいたいかどうか。 ・ 各委員協議を行い、都市計画審議会委員から真澤委員、区長から宮本委員が選出された。 <p>(岩澤町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 真澤委員及び宮本委員でどちらか委員長をやってもらえないか。 ・ お互いの協議により、真澤委員が委員長、宮本委員が副委員長に選任された。 ・ 真澤委員長及び宮本副委員長より就任のあいさつがあった。
	<p>(2) 会議録署名人の任命について</p> <p>(真澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、会議録署名人の任命について、事務局より説明をお願いしたい。 <p>(井上総務課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議録の署名人について任命したいが、事務局一任でいいか。 ・ 異議なしの声あり。 <p>(井上総務課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、根岸委員、長島委員を任命させてもらいたい。
	<p>(3) 事後評価制度の概要について</p> <p>(4) 嵐山中央地区都市再生整備計画について</p> <p>(真澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、説明をお願いしたい。 ・ 伊藤副課長から配布資料により説明を行った。 <p>(真澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平沢土地地区画整理事業の数値目標であるが、ドラッグストアーバイゴーから駅までの歩行時間を指標としている。平成18年

時点で1, 420mあり、分速80mとすると所要時間が18分から15分に短縮され、事業の効果があったという解釈だと思うが、どのルートで240mも短縮されたのか。

(伊藤副課長)

- ・ 駅からの歩行時間の数値指標については、この後、図を用いて説明させて頂きたいと思っています。

(真澤委員長)

- ・ ふれあい交流センターの駐車場を防災広場とするとあるが、避難所には一部屋根付のスペースが必要だとか、食事を提供できる場所なども必要になってくる事から、なじまないのではないか。

(伊藤副課長)

- ・ 食事については、ふれあい交流センター内に調理室がありますので、そこで提供できるものと考えております。防災広場については、防火水槽が設置しており、更に隣接地に第1分団第1部の消防車庫を建設しているところです。

(宮本副委員長)

- ・ ふれあい交流センターの利用率は高くなっており、駐車場も埋まっている。また地震だけでなく、それによる火災も考えられる。この駐車場を避難所に指定してしまうのは不適切ではないか。

(井上総務課長)

東日本大震災により、埼玉県が防災計画の見直しを行っている。それに併せ、今後町の防災計画を見直しするところであるので、以上の指摘事項を考慮していきたい。

(真澤委員長)

- ・ それでは、次の審議に入りたい。説明は続けてお願いしたい。

(5) 嵐山中央地区都市再生整備計画の事後評価の審議について

(6) 今後のまちづくりについて

- ・ 伊藤副課長から配布資料及び画面に写真を投影することにより説明を行った。

(根岸委員)

- ・ 平沢土地区画整理事業の駅までの歩行時間の評価だが、ドラッグストア・バイゴーから駅までの距離としたのはなぜか。バイゴーから駅へ行くには、都市計画道路を通過して駅を行ったほ

うが近いのではないか。土地区画整理事業で整備した所を通らず、別の道を通ったほうが近いのではないか。評価の起点を別のところにしたほうが良いのではないか。

(伊藤総務課副課長)

- ・平成18年度に本都市再生整備計画を策定したときに、現在の基準点を使用して国に申請を行って、承認を受けたものとなっています。起点については、土地区画整理事業によってできる歩道の効果を指標化するために設けており、現時点では変えることは考えておりません。

(桑田委員)

- ・そちらの道路を通るとバリアフリー化されていないということはあるのか。

(伊藤総務課副課長)

- ・歩道はできております。

(宮本副委員長)

- ・東武東上線の線路脇に道路を作っているが、あれはどうなるのか。

(菅原まちづくり整備課副課長)

- ・歩行者用道路を整備している。その先は既に整備が終わっており、歩道はない道路となっている。

(根岸委員)

- ・土地区画整理地外を通るほうが近いのでは、事業の成果が無いと判断されかねない。今回は仕方ないとしても、今後の事業では、評価をする場合の起点の設定の仕方をもう少し精査されたい。

(井上総務課長)

- ・起点の決め方がどうかという点はあるが、平沢土地区画整理事業地内の方にとっては利便性が向上していると考えている。

(真澤委員長)

- ・評価をするというが、フォローアップが多い。これでは評価がしづらい。

(伊藤総務課副課長)

- ・菅谷3号線等においては、土地の買収や移転交渉に時間がかかってしまい事業が伸びているものもあります。
- ・会議資料にも書かせてもらいましたが、多くの事業の完成が計画最終年であったため、成果を確認することが困難であり、そこは問題点として報告させていただきます。

(宮本副委員長)

- ・ 全体としては、通学路等が整備され、私自身も安心だと感じている。

(根岸委員)

- ・ ふれあい交流センターは建物が使いやすく、また利用者も多い。しかし、自転車置き場に入るところが狭く建物の入口に入りにくい。それに駐車場に小型車と書いてあるが、軽自動車を駐車してはいけないのか、その点が不明確となっている。建物についてはとても使いやすい。

(伊藤総務課副課長)

- ・ ふれあい交流センターについては、利用団体との話し合いや町民へのパブリックコメントを基に防音室や鏡、調理室、手洗い場等も設置したところではあります。

(大塚文化スポーツ課長)

- ・ 自転車置き場については、苦情等は聞いていない。「小型車」と書いたのは、「軽」と書くと逆に軽自動車のみ駐車スペースと捕らえられる。小型自動車も駐車できるスペースであるので、「小型車」とさせてもらった。

(真澤委員長)

- ・ ふれあい交流センターは稼働率で評価をすべきではないか。また、年間利用人数49,000人の算出根拠はなにか。

(伊藤総務課副課長)

- ・ 年間利用人数については、他の自治体の都市再生整備計画の目標設定数値を参考に1.1倍として設定しました。

(桑田委員)

- ・ 「定量的に評価できない定性的な効果発現状況」についてだが、ふれあい交流センターを市民参加型で作ったのであれば、そのプロセスを評価として入れて良いのではないか。

(伊藤総務課副課長)

- ・ そのようにさせていただきます。

(根岸委員)

- ・ 達成されなかった事業については、今後町はどう考えているのか。菅谷東西線については、事業の説明会は行ったが、出来なかったという旨の説明はない。区の総会等で説明をすべきではないか。

(田辺まちづくり整備課長)

- ・ 菅谷東西線については計画はまだ残っている。地権者の合意が取れていないために起点・終点が確定していない。ある程度の事業は行う予定であり、それも決定していない段階である。そのため、住民に説明が出来ない状況となっている。

(奥田委員)

- ・ 菅谷3号線に関してだが、住民の懸案事項が解決されて、利便性・安全性の効果があると思う。しかし、完成していないため、評価のインパクトに欠けるのが残念だ。ふれあい交流センターについては、利用者数を増やす教室等をおこなってから評価できる。

(田辺まちづくり整備課長)

- ・ 菅谷3号線は、武蔵嵐山駅西口からのメイン道路であるので、全力で完成させたいと考えている。現在、全力で用地交渉を行っている段階である。事業の進捗が遅れているが、町の顔となる道路として整備してゆく。

(宮本副委員長)

- ・ あと1年で集中的に行う事業は何か。

(伊藤総務課副課長)

- ・ 事業が完成していないものは、菅谷東西線の一部、2-21号線A工区、B工区、テニスコート東側線、菅谷3号線の5本となっています。

(荻原委員)

- ・ ふれあい交流センターへの交通手段はどうなっているか。

(伊藤総務課副課長)

- ・ ふれあい交流センターには駐車場の他、駐輪場を整備しています。また循環バス線が嵐山郵便局前に止まりますので、それを利用して頂くことになります。

(桑田委員)

- ・ 事後評価原案の内容についてだが、防災施設については、当時想定していなかった震災があったので、防災計画上の位置づけを見直しているということを見直したほうが良い。

(伊藤総務課副課長)

- ・ そのように加筆します。

(真澤委員長)

- ・ 他に意見がないようであれば次の説明をしてください。

	<p>(7) 評価委員会後のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊藤総務課副課長から配布資料により説明を行った。 <p>(真澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他に意見がありますか。 ないようであれば、これで議事を終了いたします。
6 閉会	宮本副会長
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>平成24年 1月23日 署名委員 <u>根 岸 義 幸</u></p> <p>平成24年 1月23日 署名委員 <u>長 島 貞 夫</u></p>	